RELIGIOUS INFORMATIONS
宗教センターだより

幼稚園より

卒園礼拝
3/5金　13:10〜
説教　シュー土戸ポール
（学院宣教師・大学宗教主任）

終業礼拝
3/15月　11:00〜

卒園式
3/16火　10:00〜

始業礼拝
4/6火　9:40〜

入園式
4/9金　10:00〜
年少組40名の子ども達を迎えます。

イースター礼拝
4/15木　9:40〜
礼拝後、庭に出てイースターエッグ探しを楽しみます。

母の日礼拝
5/17月　9:40〜
お母様方をお迎えして、共に礼拝を守ります。

（教諭　石橋 エリ）

初等部より

卒業礼拝
3/8月　9:10〜9:40
初等部米山記念礼拝堂
説教　小澤淳一宗教主任

6年生を送る礼拝
3/12金　8:25〜8:55
初等部米山記念礼拝堂
卒業生から在校生へ「友情の火」と聖書の御言葉を贈る礼拝。
奨励　飯澤正実教諭

イースター礼拝
4/9金　8:25〜8:55
初等部米山記念礼拝堂
教会暦では、今年は4月4日の日曜日がイースターです。イエス様の復活の出来事を覚えて礼拝を守ります。

お母さんへの感謝の集い
5/10月　青山学院講堂
5月第2日曜は母の日です。母の日を覚えて礼拝を守ります。

（宗教主任　小澤 淳一）

中等部より

聖ヨハネ・ホスピス訪問
3/11木　14:30〜16:00

卒業礼拝
3/15月　9:00〜9:40
青山学院講堂
講師　山田京二（日本基督教団隠退牧師）

CF（クリスチャン・フェローシップ）活動
4/7水　校内清掃奉仕活動

春の教職員修養会
4/8木　13:30〜15:00

イースター礼拝
4/23金　9:20〜10:30

母の日・家族への感謝の日礼拝
5/7金　10:20〜12:00
西大教室

（宗教主任　西田恵一郎）

開かれた宗教センターをめざして　女子短期大学編

女子短期大学のキリスト教教育・活動

吉岡 康子
女子短期大学　宗教主任

女子短期大学では「平和を求めて生きる」との2009・10年のテーマのもと、多様なキリスト教教育・活動を展開しています。

1　礼拝

学校生活の中心は礼拝です。月・水・金の昼休みに守られる礼拝（火・木は「宗教活動日」）を大切に守っています。本学に入ってはじめてキリスト教にふれた学生がほとんどですので「礼拝」と聞くとはじめは「おそるおそる」という感じで出席をするのですが、パイプオルガンの響き、讃美歌、折々に奉仕する聖歌隊・ゴスペル、ハンドベルの美しい調べ、そして何よりも先生方のメッセージ、ひとつひとつが深く心に残るようです。司会・案内放送を学生が担当している事も本学礼拝の特徴であるでしょう。卒業生の方々からも「礼拝が一番懐かしい」との声をお聞きします。

2　キリスト教教育

必修授業として1年生の前期に「キリスト教学Ⅰ」、2年生後期に「キリスト教学Ⅱ」があります。Ⅰではキリスト教・聖書の基本をできるだけ丁寧に教え、またカルトなどの勧誘への注意も喚起します。Ⅱでは卒業間際の学生に向けて「キリスト教倫理の諸問題」－働く事の意味、愛の問題、聖書の価値観と私の価値観、生命倫理、死生学などを取り上げます。

始業礼拝

チャペル・コンサート

3　キリスト教活動

夏には「サマーキャンプ」、2月には「天城冬のつどい」がもたれます。09年度8月には、難民を助ける会会長の柳瀬房子さん、2月の「冬のつどい」には、安積力也先生（基督教独立学園校長）を講師としてお迎えして豊かな時を持ちました。5月のチャペル・ウィーク、秋のランチタイム・コンサート、クリスマス礼拝、クリスマス・コンサートなども行われます。聖歌隊・ゴスペルグループ、ハンドベルも楽しく、活発に活動しています。

2年、あるいは3年と言う短い期間ですが、学生たちの心に何よりも神さまの愛が届くように、福音の種が蒔かれて実を結ぶようにと祈りつつ、今後も歩み続けたいと願っています。

2010年度　宗教活動センター関係行事日程

	日	程	行　事	場　所
4月	2	(金)	同盟校推薦入学生歓迎会	短大礼拝堂　他
	3	(土)	始業礼拝	青山学院講堂
	17	(土)	春の研修・親睦会	短大礼拝堂
5月	17	(月)〜	チャペル・ウィーク	
	19	(水)	宗教講演	短大礼拝堂
	21	(金)	チャペル・コンサート	短大礼拝堂
7月	31	(土)〜	サマー・キャンプ・イン軽井沢	中軽井沢寮
10月	4	(月)	神学校日礼拝	短大礼拝堂
	5	(火)	ランチタイムコンサート	短大礼拝堂
11月	12	(金)	創立記念礼拝	短大礼拝堂
	26	(金)	クリスマス・ツリー点火祭	ツリー前
12月	8	(水)	クリスマス礼拝	青山学院講堂
1月	28	(金)〜	冬の集い（リトリート）	天城山荘
3月	17	(木)	卒業礼拝	青山学院講堂

英語で知るキリスト教

Easter : New Hope, New Life

シェロ マイク
学院宣教師
女子短期大学准教授

Easter is the Christian holiday that commemorates[1] the death and resurrection[2] of Jesus. This is the foundation of the Christian faith. The resurrection established[3] Jesus as the true son of God. Through Jesus the power of sin was cancelled. Those who follow Jesus receive "a new birth into a living hope through the resurrection of Jesus Christ from the dead" (1Peter[4] 1:3). This means that anyone who believes in Jesus is spiritually resurrected with Jesus in order to receive eternal life[5].

Easter is connected to the stories of the Passover[6] and the Exodus from Egypt[7] written in the Old Testament[8]. Through the Last Supper[9] Jesus gave new meaning to the Passover meal. The loaf[10] of bread symbolizes his body crucified[11] on the cross. The cup of wine symbolizes his blood shed[12] to redeem[13] the sin of humanity. The New Testament[14] teaches that "if anyone is in Christ, he is a new creation; the old has gone, the new has come" (2 Corinthians[15] 5:17). Easter is a celebration of new life. It is an annual[16] reminder[17] that Jesus welcomes all to a new chance in life.

Jesus was crucified, so he understands our suffering[18]. Jesus was raised from the dead, so he can offer us new life and relief[19] from our suffering . Easter shows us that the true source of peace and hope is in the love of Jesus.

1	commemorates	〜を記念する
2	resurrection	復活
3	established	(…ということを)確証する
4	1Peter	ペトロの手紙一
5	eternal life.	永遠の命
6	Passover	過ぎ越しの祭り
7	Exodus from Egypt	出エジプト
8	Old Testament	旧約聖書
9	the Last Supper	最後の晩餐
10	loaf	ひとかたまり
11	crucified	(十字架に)はりつけにされる、責め苦しめられる
12	shed	(血や涙などを)流す
13	redeem	贖う
14	New Testament	新約聖書
15	2 Corinthians	コリントの信徒への手紙二
16	annual	年に一回の
17	reminder	思い出させるもの
18	suffering	苦しみ
19	relief	(苦痛、心配など)取り除く

シリーズ
地の塩、世の光

心を尽して主に信頼し、自分の分別には頼らず
常に主を覚えてあなたの道を歩け。
そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。
Ch.3.5-6 Book of Proverbs
箴言　第3章 5〜6節

中村 啓子
ナレーター

あなたの歩く道

番組やCMの他、時報、ドコモの留守番電話サービスなど、私の声は、生活の身近なところであなたに語りかけています。

短大卒業と同時にナレーター事務所に所属した私の仕事は、順風満帆でした。周囲から売れっ子と呼ばれるようになり、次第にプライドを持つようになっていた私に、39才のときに起きた、青天の霹靂のような出来事、それはガンの宣告でした。遥かかなたにあると思っていた「死」が、突然目の前につきつけられたのです。

もしこのまま死んでしまったらなんと薄っぺらな人生なのだろう。忙しい時には考えもしなかった思いの中、私がやり残したのは「愛すること」だと気付かされました。

「神様、もう一度命が与えられたら、愛することを教えてください！」私は、叫ぶように祈りました。

退院後、再発の不安の中、本当の愛を求めて自己啓発セミナー、新興宗教などを彷徨う私に、ある時クリスチャンの友人から「教会へ行ってみたら?」という電話が入りました。

初めて教会に足を踏み入れたとたん、OHPに写し出された賛美の歌詞から「ゆるし」という3文字だけが、まるでクローズアップされたかのように私の目に迫って来ました。

そして、これが本物だ！という熱い思いに満たされたのです。

それまで、人を罪人というキリスト教を拒否しつづけていた私は、自分がなぜ「ゆるし」に反応したのかわかりませんでした。

その後、礼拝に通ううちにわかったのは、キリスト教でいう罪とは、法的な意味ではなく、「神に背いて生きること」だということでした。

神からいただいた声を自分の手柄のように誇り、快楽のためだけに使っていた私こそ罪人だったと気付き、それから間もなく洗礼を受けました。

中心になるものがあるというのは、何と平安なことでしょう。それまで対人関係などで不信や不安でいっぱいだった私は、聖書という絶対的なカウンセラーを得たのです。そこには、全ての悩みに対する的確で揺るぎない回答が詰まっていました。

そして今、「この声を神の愛を伝えるために用いてください」との祈りの中、末期がん患者への聖書朗読や、三浦綾子作品の朗読CD制作に励んでいます。

人に喜んでもらうことにこそ、本当の喜びがあるということを知った私は、今、極上の幸せを実感しています。

自分に与えられた賜物を発見し、感謝し、神からその意味を訊く。

そうすれば、神様は、私と同様、きっとあなたの道筋をまっすぐにしてくださることでしょう。あなたが生まれたのは、神の計画の故なのですから。

シリーズ・私の教会　file 102　　Kugahara Church　Yukigaya Ota-ku, Tokyo

日本基督教団 久が原教会

五十嵐 元篤
高等部英語科教諭

私の所属する久が原教会は、プロテスタントの日本基督教団東京教区南支区に属する教会です。1939年、現在の教会の所在地からわずかに離れた大田区雪谷の地に伝道所として開設されました。伝道開始より3ヶ月後の11月19日、18名の信徒により「日本組合雪谷教会」と命名され、伝道所から教会としてスタートしました。

久が原教会は、教会付属のこひつじ幼稚園を設け、地域の幼児教育に使命をもってあたっています。「子どもは神と人から愛されて、豊かな人格と魂の自由をもつ人に育つ」ことを大切にし、子どもの心の声に耳を傾けながら保育を実践しています。教会員は現在およそ120人で、実に様々な年齢層から成り立っています。家庭的な雰囲気の中に、活力あふれる自由な精神がいつも漂っているのを感じます。

今から3年前に赴任され、こひつじ幼稚園の園長も兼ねている藤崎義宣牧師は、非常にユニークな人柄で知られています。同志社大学大学院卒業後、インドの大学へ留学するという経歴の持ち主で、臨床心理士の資格を持ち、カウンセリング活動も幅広く行っています。藤崎牧師の説教のお話は非常にわかりやすく、聖書の中の人との出会いを通して知的好奇心や未知の世界への冒険心がかき立てられます。

さて、私とこの教会との出会いは約20年ほど前にさか上ります。母校の青山学院高等部に奉職して30年になりますが、振り返れば勤めてまもなく、今は亡き養護教諭の原田和子先生に教会に誘われ、それからしばらくして導かれて洗礼を受けることになりました。今の代官山にある本多記念教会が、その私の母教会です。本多記念教会から久が原教会に転会したのが、今から20年前になります。青山学院と歴史的に関係の深い本多記念教会から、あえて転会を決意した理由は、家族を含め地元の地域社会に根差した教会活動を求めたからにほかなりません。以来20年間家族共々神様に守られ、教会と共に歩んでくることができました。現在教会役員として教会活動全般にかかわる責任を担い、意欲的に奉仕活動をさせていただいています。

〒146-0085
東京都大田区久が原4-37-14
電話: 03-3751-2072
ホームページ: http://www.kugahara-church.jp

CHRISTIAN BOOKS & CDs　　シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

ブレーズ・パスカル
『病の善用を神に求める祈り』
メナール版『パスカル全集』第2巻、白水社所収

茂　牧人
総合文化政策学部教授

この小品は、パスカル（1623−1662）が、晩年の2年間、病気が少し快復した時期に書かれた作品です。パスカル自身がつけた15の断章からなっています。

病気の中にあって少し快復した晩年のパスカルは、自分の病の中に神の恩恵を感じ取っています。神の恩恵によってのみ生きようとするパスカルの信仰の生の息遣いの聴こえてくる美しい小品です。自分がこれまでの健康な体をただ世俗の愉楽のために用いてきたことを懺悔しています。この世のすべてのことは、罪の赦しという神の恩恵を知るきっかけにはなりません。あるいは教会の中の洗礼を受けた人たち、聖餐に与かる人たちも、健康をこの世での楽しみに用いています。今パスカルが病の中にいるのは、この世に関わるすべての事柄を放棄して、神のみ前に進み出るための準備なのです。この病の苦しみは、キリストの十字架での苦しみを感じる契機となっているのですから、神の憐れみなのです。この病と傷と苦しみをきっかけにして、神の恩恵を感じ取ろうとして、この病と傷を祝福して、用いてくださるように祈っています。それが病の最善の用い方であり、それを神に祈る美しい小品なのです。

中でも第3節で次のように祈っています。「この世から離れ、ただひとりあなたのみ前に進み出るように、主よ、この病の中にあって、一種の死の中に自分がいるようにみなし、あなたの憐れみによって私の心が回心することを願うために、この世から離れ、私の執着のすべての対象を失い、ただひとりあなたのみ前に進み出させてください」、と。ここでパスカルは、病という中にあって、自分がこれまで執着してきたこの世のすべてのものを放棄させてくださいと祈っています。つまり、自分が無になるときに、神の恩恵が自分自身を満たしてくれるというのです。

私たちは、死の瞬間にこの世でしてきた功績、財産すべてを放棄しなければなりません。しかしその瞬間に神が、自分自身を満たしてくださるのです。そのときに人は人を赦すこともできるようになると思います。命の中にはこのような逆説があるのですね。病のときに、このように祈ることができれば幸いなことだと思います。

編集後記

今号は「イースター　新しい出発（たびだち）」として、卒業する児童、生徒、学生の方に寄稿してもらいました。新しい世界に向けてはばたかれる方々が、青山学院の香りをもちつつ「地の塩　世の光」として歩まれることをお祈りしています。
（鈴木 祥子）

Wesley Hall News　第102号
2010年3月1日発行
発行　青山学院宗教センター　学院宗教部長　嶋田順好
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）
URL.http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html
E-mail.agcac@jm.aoyama.ac.jp
編集　ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷　株式会社 万全社

説教

復活——死を突破する命の希望

マタイによる福音書　第28章 1－10節

嶋田 順好
学院宗教部長

恐れと喜び

天使から主が復活なさったことを告げ知らされた時のマグダラのマリアたちの様子を、マタイは「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った」と証言しています。

ここで心に留めておきたいことは、「恐れながらも大いに喜び」と記されていることです。復活の知らせは、単純に喜びばかりの出来事だったとは記されていません。彼女達は、「恐れ」の思いも抱かされたのです。どうしてでしょうか。女たちは、最も深い意味において人間の力でもない、自然の力でもない、ただ神の力が現れ、神の御業がなされたことによって引き起こされた「畏れ」を抱かされたからです。

恐れと喜びに捉えられながら、この出来事を弟子たちに知らせるため一目散に走り出した女たちを、もっと「畏れ」させ、喜ばせる出来事が起こります。あたかも二人のマリアを待ち伏せするように復活の主イエスが、ご自身を女たちに現してくださったからです。

九節に「すると、イエスが行く手に立っていて『おはよう』と言われた」とありますが、原文では、「すると、見よ」となっています。明らかにこの「見よ」には、思いもかけない驚くべき出来事が生起したとの強調の思いが込められているのでしょう。しかも「イエスは行く手に立って」と訳されているところは、「イエスは出迎えて」とも訳すことができるのです。きっとこの時の復活の主は、満面に笑みをたたえ、両手を広げて、女たちを出迎えて下さったのではないでしょうか。

そこで復活の主は、女たちに「おはよう」と声をかけました。この言葉は、当時、日常の挨拶の言葉として用いられていたものでした。ですから「おはよう」と訳されても仕方のないことなのかもしれません。しかし、この言葉を直訳すれば「あなたたちは喜びなさい」ということになるのです。確かに日常的には当たり障りのない挨拶の言葉でした。しかし、それが復活の主から発せられたこの時ほど、この言葉が本来持っていたであろう喜びの響きを奏でたことはありません。

悲しみに沈んでいたマリアたち

「あの方は死者の中から復活された」との喜びの知らせを伝えるために脱兎のごとく、弟子たちのもとへと駆け出した二人のマリアを見つめていると、私は、究極のどんでん返しということを思わずにはいられなくなるのです。

二日前の夕方、主イエスの葬りに立ち会った二人のマリアは「そこに残り、墓の方を向いて座っていた」(マタイ27･61)のです。もう安息日の始まる夕暮れの闇が迫っていました。しかし、女たちは主の墓の前で座ったまま、動こうともしません。深く深く悲しみの中にうずくまるのです。遺体でもよいから、女たちは、ただひたすらに主イエスの傍にいたかったのです。愛する者の死、それは誰にも耐え難いことです。ましてその死が冤罪による見せしめの処刑死であれば、なおさらのことです。

この二人のマリアの悲しみは、私たちが人生の旅路で、愛する者、親しき者を死によって奪い去られた時の悲しみを代表している嘆きではないでしょうか。まさしくその悲しみと嘆きは、主イエスの墓の前でこそ、最も深まるのです。

復活の命の希望に支えられて

しかし、悲しみに打ち砕かれ、うずくまっていた二人のマリアが、今は走っています。駆け出しています。抑えようにも抑えがたい喜びに突き動かされ、「あの方は死者の中から復活された」との勝利のメッセージ、揺るぎない希望のメッセージを携えて!

この二人のマリアと共に、罪と死の力に逆らい、死から命へ、滅びから勝利へと、復活の命の希望へと突破すること。その一筋の道を走っていくことこそが私たちの道です。

走り出した女たちの姿を見つめていると、訳もなく星野富弘さんの次のような詩が思い起こされてくるのです。

思い出の向う側から／一人の少年が走ってくる／あれは白い運動ぐつを
初めて買ってもらった日の／私かもしれない
白い布に草の汁を飛び散らせながら
あんなにも／あんなにも嬉しそうに／今に向かって走ってくる

時代も、場所も、生起した出来事も全く違うのですが、この詩がいつしかこんな風に私には聞こえてくるのです。

死の悲しみと絶望の向こう側から／女たちが走ってくる／あれは墓の前で天使から
主の復活を知らされた朝の／二人のマリアかもしれない
命の望みにはじけるように
あんなにも／あんなにも嬉しそうに／〝復活〟に向かって走ってくる

卒業おめでとう。 皆さんが、どのような厳しい試練、死の陰の谷を歩むような時も、 復活の主の命の希望に支えられて、 人生の馳せ場を力強く走り続けることができますように。

幼稚園で聴いた聖書のお話

Stories in the Bible

幼稚園での礼拝で聴いてきた聖書のお話について、3月に卒園する子ども達に話を聞きました。

世界を造られた神様

「神様は地球を造って、海や生き物や人間とか木や果物を造ってくれてすごいと思った。神様はやさしい、何でも造れるって思った。」
「神様が人間を造ってくださらなかったら、僕たちは今ここにいないから、不思議だなあと思う。」

出エジプト記

「海が分かれて、両側が壁みたいな道になったんだよね。」
「空からパンが降って、そんなの本当に降るのかなあ、って思った。」
「私は、パンを降らせて、神様って優しくて良い人だなって思った。」

ノアの箱舟

「ノアの箱舟の話を聴いて神様が大好きになったの。」
「私も、前は中くらいに好きだったけど、大好きになった。」
「でも大雨が降ってきて、本当に人が溺れちゃったなら嫌だった。」
「そうだよ、神様もちょっと、やりすぎだと思う。」
「私は、ノアの箱舟ってすごいなと思って、自分も溺れるといけないからプールに行ったら、だんだん上手になったの。」

カナの婚礼

「イエス様が、ただの水をぶどうのジュースみたいにした話がすごかったよ。」
「僕は、ただの水がワインになったけど不思議じゃなかったよ。イエス様がしたから、それくらいの手品みたいなことは出来るんだよ。」

12歳のイエス様

「マリアさんとヨセフさんが、神殿で12歳のイエス様を見つけた時に(大人の学者達と神様の話をしていて)さすがイエス様！って思った。」
「イエスさまが見つかって、マリアさんに『どうして私を探したのですか』って言ったときは、どうしてそんなこと言ったのかなって思ったけど。でもクリスマスのこと(イエス様は神様のひとり子としてお生まれになった)を思い出したら、わかった。」

マリアの祈り

「マリアさんがクリスマスにお祈りしたところが好き。お言葉どおりになりますように、って。それから私も今日からそういうお祈りを始めようかなってお祈りしたの･･･。」

子ども達の話を聞いていて、人知を遥かに超えたところで、神様が子ども達の中に働いてくださっていることを感じました。
「人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。」(箴言16:9)
4月から初等部1年生になる子ども達のこれからの歩みが、主に祝されて益々豊かなものとなりますようにお祈りしています。

(幼稚園教諭　石橋エリ)

隣人を自分のように愛しなさい

Love neighbors as yourself

高野 有彩
初等部6年

初等部での一番最初の宿泊行事、なかよしキャンプで、新しい聖書をもらいました。上級生のように、礼拝でぺらぺらとページをめくりたくて、もらったとたんにめくってみたような気がします。その日から聖書と私はずっと一緒に過ごしてきました。

私が聖書の中で、一番好きな箇所はルカによる福音書10章25節の善いサマリア人です。その中でも「隣人を自分のように愛しなさい」というみ言葉が心に残っています。自分には関係ないからと、通り過ぎて行った祭司やレビ人。憐れに思い助けたサマリア人。初等部に通っていなかったら私は祭司やレビ人になっていたかもしれません。今の自分でいられるのは、初等部に入学して沢山の出会いがあったからです。

六年間一緒に過ごし、苦しい平戸の遠泳も、楽しい洋上小学校も、共に経験した同級生。初めての雪の学校で、沢山遊んでくれた上級生。今度は自分の番だと、気合いを入れてまとめてくれた下級生。時には恐かったり、どきどきしたこともあったけれど、私の気持ちになって考えて下さった先生方。朝学校へ行くと、気持ちよくむかえてくれる教室。「おはよう。」と笑顔であいさつをして下さり、私達が休みの間も学校を守って下さる警備員さん。あとちょっとだから集中して頑張れというように、授業中後ろから見ていてくれる時計。下校して、家に帰れば「お帰り」と言ってくれる家族。そして何より、毎日毎日を見守って下さる神様。

本当に幸せな六年間を送ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。初等部での六年間を宝物に、私は善いサマリア人のように自分のできることを精一杯人のためにしていきたいと思います。

中等部生活を通して

Through life in middle school

菊池 大輔
中等部3年

クラブ活動や運動会、中等部祭など、この三年間はいろいろなことがありました。その中でも中等部卒業にあたって、大切だと思った聖歌隊のことを話したいと思います。

例年、聖歌隊の選抜は一年生の終わり頃に行われます。しかし、私の場合はこれとは違い、二年生の終わり頃に先生から声をかけていただきました。やると決めたものの、この時は正直、自信もやる気もいまいちで、とても軽い気持ちでした。しかし、入学式・イースター礼拝など数々の行事やそれに向けての練習を重ねていくうちに、聖歌隊としての意識も変わり、「聖歌隊は大変だけれど、この活動が中等部の役に立っているんだ」と思えるようになりました。最初の頃の面倒でやる気のない感じが、様々な経験を経て、明るく、前向きになることができたのです。そして、クリスマス礼拝本番。心地よい緊張感の中で臨めたこの礼拝は、結果的に最高の礼拝になったと思います。

私は、なぜ自分がこんなにも変われたのか、あれこれと考えてみました。そして「自分が神様に支えられてきたからなのだ」と気づきました。

私は、クラブ活動でとても苦しい時や辛い時、友達をものすごく傷つけてしまい、もうどうしようもない状態で、謝ることが出来なかった時などに、一歩踏み出すその背中を押してくれるような神様の存在を何度か感じたことがあります。だからこそ、聖歌隊で精一杯賛美することで、少しでも神様の恵みに報いることをしたいという気持ちが、私の心の中にあったのです。そして聖歌隊での奉仕が、少しだけですが、自分なりに神様への奉仕となり、私自身が神様によって変えられたのだと確信しています。

この中等部での生活を通して、いつも神様の恵みに報いようと努力することの大切さを感じました。それをこれからも実行していきたいです。

特集　イースター—新しい出発(たびだち)

Special issue : Easter, New departure

初等部卒業式

女子短大始業礼拝

中等部卒業式

いろいろなことがあった学院での生活も終わり。
旅立つ日の思いを寄せてもらいました。

高校生活と時間

High school life and time

桑野 慎弓
高等部3年

「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト･イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」(フィリピの信徒への手紙第3章13～14節)

突然ですが、あなたの夢は何ですか？ 急に聞かれても、答えられる人の方が少ないかと思います。皆様も良くご存知のタラントンのたとえ。その中には、主人(神様)はそれぞれの力に応じてタラントンをお授けになったと書かれています。この話を聞くと、一見不公平なように思えますが私は、ここにおいて大切であるとされるのは、タラントンよりむしろ「時間」であると感じます。たとえどんなに素晴らしい才能を神様からいただいていたとしても、その才能を開花させる努力をする時間がなければ、単なる宝の持ち腐れになってしまいます。つまり、ここでいう力というのは才能を有効に使うことの出来る力、「時間」であると私は考えるのです。「時間」は、1日24時間どんなに裕福な人でも貧乏な人にも平等に与えられている神様からの贈り物です。

冒頭の質問ですが、私の夢は発展途上国に新しい産業を興す事です。私はこの一年、生花同好会の部長と文化委員長のお仕事を引き受けさせていただきました。この2つのお仕事を引き受けたのは、私の夢に向けてなくてはならない要素であると感じたからです。決して楽であった訳ではありませんが、この役職についていたからこそ学ぶべき事が多くあり、これらの経験がこれからの私の人生においてプラスに働くことは間違いないでしょう。違っていて、それでいて美しい。言う事は簡単ですが、実行するのはかなり難しく、同じ国の学校の中でさえ大変なのだから、言語の壁･習慣の壁を越え、理解し分かり合える事はどれほど大変であろうかと思います。

私達には、それぞれ授けられたタラントンがあります。ですから私は限りある人生をこの大きな夢と共に思いっきり走っていきたいです。

女子短大で過ごした2年間

2 years in the junior college

松本 亜沙
女子短期大学 教養学科2年

私は、小さい頃から教会に通っていて洗礼も受けていますが、小･中･高は普通の公立校だったので、ミッション系の学校に通うのは女子短大が初めてでした。授業のキリスト教学や、お昼休みの礼拝など、学校生活でキリスト教に触れるのはとても新鮮でした。そして、聖歌隊に入って礼拝奉仕などもするようになりました。

1年生と2年生の夏に、軽井沢のサマーキャンプに参加しました。講師の先生のお話を聞き、普段ではあまり関わりのなかった先生方や他学科･他学年の人たちとも仲良くなれて、とても楽しいキャンプでした。グループワークでは、いろいろな人の感性に触れたり、意見を交換したりする中で、まだまだ自分の知らないいろいろな見方や考え方があることを実感しました。このキャンプは、おいしいお食事と素晴らしい軽井沢の自然に触れられるだけではなく、このグループワークでの学びは本当に学生ならではのなかなかできない経験ではないかと思います。私は学内とはまた違った形で勉強することばかりで、本当に感謝でした。

また、私にとって大切な場所であった聖歌隊での活動では、賛美の楽しさを改めて教えていただきました。先輩方と一緒に歌った昨年も、後輩達と一緒に歌った今年も、きっと皆で共に賛美することの素晴らしさと音楽の力をたくさんの方々に伝えられたのではないかと思っています。とにかく皆と歌うのは本当に気持ちが良くて、聖歌隊の一員であったことは私の誇りです。

このような宗教活動をはじめ、様々な中で、私は本当にたくさんのことを教えていただきました。福岡から上京してしばらくは泣いてばかりいましたが、女子短大を選んだことは間違っていなかったと今実感しています。たくさんの出会いがあって、周りから支えられてばかりの2年間でしたが、これからも胸を張って会えるように、卒業後も目標をもって頑張りたいと思います。

ありがとうございました。

出会いの示す道へ

Guided by "encounters" with God

上野 峻一
大学 文学部第二部 教育学科4年

「正門の脇にある像って誰か知ってる?」「ああ、イエス･キリストだよ、俺クリスチャンだから。」そんな大間違いで入学した4年前…。毎日、日が暮れて通う青山キャンパスは、私には暗闇の中で光を放つともし火のようでした。

青山学院での学生生活を振り返り、ひとつ確信したことがあります。それは、新しい道は出会いから始まるということです。そして、その出会いは決して自分で選ぶことができない不思議な力によって与えられるものです。この4年間、互いに励まし切磋琢磨した友人、新しい思想の世界に導いてくれた書籍、学問的にも人格的にも感化を受けた先生方、これらどの出会いも、私に様々な道を与えてくれました。しかし、そのすべての出会いは、私が自ら求めたものではありませんでした。

聖書には、復活のイエスと出会い、その生き方を180度変えられた人物が登場します。パウロもその一人です。クリスチャンを迫害していた彼は、その出会いを通して、キリスト教の伝道者となる人生の大転換をしました。おそらくパウロ自身はその出会いを望んでいなかったと思います。出会いは、時に人間の予想を超える働きと導きとを与えるのです。小学校の教師になるべく青山学院に入学した私は、イエス･キリストを信じ、その愛に生きる先生方や多くの友人、そして、その愛を必要とするたくさんの人々と出会い、今、キリスト教の伝道者となるために卒業します。

偶然と呼ばれる出来事は数多くあります。出会いもその一つです。けれども、そこに大いなる御方の不思議な力を感じ、そのことを受け入れるならば、復活のイエスと出会ったパウロのように、また正門脇のウェスレーのように、そこから全ての人に与えられた神様の壮大な物語への道が開かれるのではないでしょうか。「地の塩、世の光」の言葉を胸に、青山学院を卒業する恵みを心から神様に感謝して。

「人の歩む道は主の御目の前にある。その道を主はすべて計っておられる。」(箴言5：21)

RELIGIOUS INFORMATIONS

宗教センターだより

高等部より

卒業礼拝
3/8月　13:45　PS講堂
説教　河見誠(女子短期大学 家政学科教授)

卒業式
3/10水　9:30　PS講堂

入学式
4/7水　10:00　青山学院講堂

イースター礼拝
4/12月　10:50　青山学院講堂

特別礼拝
6/2水　10:00　青山学院講堂

(宗教主任　坂上三男)

女子短大より

卒業礼拝
3/18木　13:30～14:30　青山学院講堂
説教　吉岡康子(宗教主任)

同盟校推薦入学生歓迎会
4/2金　11:00～　女子短期大学礼拝堂 他

始業礼拝
4/3土　10:00～11:00　青山学院講堂
説教　吉岡康子(宗教主任)

春の研修･親睦会
4/17土　11:00～　短大礼拝堂 他

チャペルウィーク
5/17月－21金

(宗教活動委員　小林瑞乃)

大学より

オーストラリア･クリスチャンファミリー･ホームステイ･プログラム
2/12金－3/6土
クリスチャン家庭に滞在し、現地校で英語研修、ボランティア…キリスト教や異文化の体験をします。

フィリピン訪問プログラム
3/16火－26金
初等部･中等部との合同プログラム。6名の学生が参加、現地の生活を共にします。

大学卒業礼拝
3/27土　9:00～　ガウチャー記念礼拝堂
説教　大島 力 宗教部長

キリスト教推薦入学生オリエンテーション
4/3土　9:00～　ガウチャー記念礼拝堂他

キリスト教概論Ⅰ オリエンテーション
4/5月－8木　ウェスレー･チャペル

新入生歓迎礼拝
相模原4/9金－15木
第二部4/13火

チャペル･ウィーク
青山　5/24月－28金
相模原5/24月－29土

宗教センター･グループ活動
いずれの集会も自由に参加できます。

聖書に親しむ会
わかりやすく、楽しく聖書が学べます。
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰とのかかわりにおいて語り合い、考え合います。
(宗教委員、クリスチャン教員と宗教主任担当)

(宗教センター事務室　尾崎誠)

本部より

教職員新学年度礼拝
4/8木　17:00～　ガウチャー記念礼拝堂
新年度も礼拝をもって始めて参りましょう。

(宗教センター事務室　尾崎誠)